

船舶事故調査報告書

令和3年10月6日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	衝突（岸壁）
発生日時	令和2年12月12日 15時10分ごろ
発生場所	大分県臼杵市臼杵港下り松岸壁 臼杵港防波堤灯台から真方位255°410m付近 (概位 北緯33°07.6′ 東経131°48.6′)
事故の概要	旅客フェリーおれんじ九州は、着岸作業中、岸壁に衝突した。
事故調査の経過	令和2年12月16日、主管調査官（門司事務所）を指名 原因関係者から意見聴取手続実施済
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	旅客フェリー おれんじ九州、2,924トン 140525、瀬野汽船株式会社（船舶所有者）、九四オレンジフェリー株式会社（船舶借入人）
乗組員等に関する情報	船長、三級（航海）
負傷者	なし
損傷	本船 右舷船尾部外板に擦過傷 岸壁 防衝板の落下
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 北西～北、風速 約7～12m/s、視界良好 海象：海上 平穏、潮汐 上げ潮の中央期 臼杵市には、12日04時28分に強風注意報が発表され、本事故当時も継続中であつた。
事故の経過	本船は、2機2軸2舵で可変ピッチプロペラを装備し、船長ほか9人が乗り組み、旅客15人を乗せ、車両14台を積載して臼杵港の東西方向に設置されたフェリー専用下り松岸壁（以下「本件岸壁」という。）に船首を約103°に向けて右舷着けし、船尾を本件岸壁西側の岸壁に着岸する目的で、本件岸壁東方沖で機関を後進に掛け、西北西進して徐々に両岸壁に接近した。 船長は、操舵室右舷側に設置のジョイスティックで操船に当たり、船尾方からの風速約7m/sの北西風に対し、本船右舷側が本件岸壁北方沖約20mのところをふだんより長めに後進に掛け、約0.9ノットの後進行きあしで接近中、急に風速約12m/sの強い北風に変わり、行きあしを抑えて本件岸壁から離すように操作したものの、右舷方に圧流されて右舷船尾部が本件岸壁に衝突した。
分析	本船は、強風注意報が発表されている状況下、後進で着岸する本件岸壁とその西側の岸壁に接近する際、船長が、船尾方からの北西風に対し、本件岸壁に接近して後進したことから、急に変化した強い北風により、右舷方に圧流されて右舷船尾部が本件岸壁に衝突したものと

	考えられる。
原因	<p>本事故は、強風注意報が発表されている状況下、本船が後進で着岸する本件岸壁とその西側の岸壁に接近する際、船長が、船尾方からの北西風に対し、本件岸壁に接近して後進したため、急に変化した強い北風により、右舷方に圧流されて右舷船尾部が本件岸壁に衝突したものと考えられる。</p>
再発防止策	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 強風注意報が発表された状況下、船尾及び一方の舷を着岸するために岸壁へ接近する場合、船尾側の風上に向けて後進中、急な風の変化に対応できるよう、タグボートの支援を要請するか、もしくは、着岸する岸壁から十分な距離を取り、隔てたのちに徐々に接近するなど、風の影響を考慮した操船を行うこと。